

個人で応援できること



サッカーを通じた共生社会の実現に向け、 活動のサポーターとなる個人の継続寄付会員 「JIFFサポート会員」になる

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）は、個人の継続寄付会員制度として「JIFFサポート会員」を募集しています。月1,000円からの入会が可能であり、いただいたご寄付は、すべて7つの障がい者サッカーの普及・発展および共生社会の実現に向けた活動に充てさせていただきます。

JIFFサポート会員特典

- 前年度の障がい者サッカー年鑑（毎年4月頃に送付）
- JIFF年次報告書（毎年8月頃に送付）
- JIFF主催イベントの優先申込権 ほか



▶ 入会方法・詳細

<https://www.jiff.football/special/kifu-2021/>



Tポイントで寄付する

聴覚障がい者のスポーツ参画を応援する

聴覚障がいの場合、聞こえないまたは聞こえにくいことを除けば健常者と変わらないにも関わらず、情報保証がなされないことで指導者や審判員としてのチャレンジを断念しなければならないことが多くあります。本寄付金は、JIFFの「手話通訳費用補助制度」により、講習会や研修会の手話通訳費用に使用されます。1円からの寄付、Tポイント1ポイントからの寄付が可能です。



▶ ご寄付のご案内

<https://www.jiff.football/join/support/>



読み終えた本で寄付する

障がい者サッカー全体を支援する

不要になった古本やDVD、ゲーム、デジタル家電等を寄贈していただき、その買い取り額相当がJIFFに寄付される仕組みです。古本買取専門店「本棚お助け隊」が提供するファンデレイジング支援プログラムであり、回収用のダンボールは無料で、ゆうパックで全国無料集荷も可能です。また、郵便局やローソンから気軽に発送できます。

Japan Inclusive Football Federation

ANNUAL
REPORT 2021

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
年次報告書 2021



サッカーなら、 どんな障害も 超えられる。

日本の人口の7.6%は障がい者です。

その障がいは多様で、

ひとつとして同じ在り方はありません。

障がいがあっても、いつでも、どこでも、
サッカーを心から楽しめる環境を。

社会にある“障害”を超えていく

きっかけづくりも、サッカーならできる。

私たちはそう信じて、活動しています。



CONTENTS

3 会長あいさつ

TOPICS 01

4 東京2020大会でサッカー3カテゴリーが 初の同一ユニフォームを着用

TOPICS 02

5 教育・研修コンテンツの開発と充実

TOPICS 03

6 9地域障がい者サッカー連携会議 中央主導から地域主導へと発展

8 2021年度事業報告

11 2022年度事業計画

12 JIFFパートナー制度

13 パートナー／支援団体／助成団体一覧

14 JIFF概要

15 財務報告

本連盟が設立され7年目を迎えました。7つの障がい者サッカーの発展、JFAをはじめとするサッカーファミリーとの連携はさらに深まり、共生社会実現へ向けた活動は着実に前進しています。

東京2020大会でのサッカー3カテゴリーによる 初の同一日本代表ユニフォーム着用

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、

オリンピックに出場するU-24日本代表、なでしこジャパンとパラリンピックに出場するブラインドサッカー日本代表をサッカー界全体で応援しようと、「TEAM FOOTBALL JAPAN 2020」が立ち上がりました。そして、3つのカテゴリーの日本代表が同一のユニフォームを着用して世界と戦うという歴史的な大会となりました。サッカー界の応援を受け、ブラインドサッカー日本代表は初出場ながら5位入賞を果たしました。

サッカーから 共生社会の実現を

一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟 会長
北澤豪

誰もが、いつでも、どこでも、 サッカーを身近に楽しめる環境整備

障がい者の日常を変えるべくスポーツ庁と連携し進めてきた9地域障がい者サッカー連携会議によるネットワーク構築は中央主導から地域主導へと発展し、31都道府県で障がい者サッカーを管轄する組織または会議体が設置されました。インクルーシブな場づくり、指導者養成、チームづくりなど、地域の普及状況に応じた活動が推進されています。

本連盟が推進するインクルーシブフットボールフェスタは、東京では2年ぶりに対面で開催し、加えてオンラインでの参加を可能にするなど新たな取り組みを行いました。また新規に、神奈川県サッカー協会と共催で開催するなど、コロナ禍においても開催地を増やすことができました。

した。また、JIFF登録指導者、バルサ財団（スペイン）との指導者講習会参加者も順調に増加しており、全国に障がい者サッカーを理解する指導者が増えています。

国際的な障がい者サッカーの普及・発展への貢献

国際的な動きもありました。障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組むパラフットボール財団（オランダ）との連携が深まり、2021年9月にアフィリエイトFA（加盟団体）となりました。

今後も、7つの障がい者サッカーとサッカーファミリーおよびスポーツ界との連携を深め、共生社会実現に向けて活動してまいります。益々のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

TOPICS

東京2020大会でサッカー3カテゴリーが初の同一ユニフォームを着用

01



©JFA

サッカー界がひとつに「TEAM FOOTBALL JAPAN 2020」を結成

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、日本サッカー協会（JFA）、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）、日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）、日本障がい者サッカー連盟（JIFF）、日本ブラインドサッカー協会（JBFA）が連携し「TEAM FOOTBALL JAPAN 2020」を結成しました。この取り組みは、同大会に出場するサッカー男子（U-24日本代表）、サッカー女子（なでしこジャパン）、5人制サッカー（ブラインドサッカー男子日本代表）をサッカーファミリーが一体となって応援し、性別や年齢、障がいの有無など様々な違いを超えて絆を深め合おうとするものです。記者会見にはJIFFからは北澤豪会長が出席し、出場する3つのチームが同一デザインのユニフォームを着用することも発表されました。

TOPICS

教育・研修コンテンツの開発と充実

小・中学生向けインクルーシブ教育プログラム2022年度実施校の募集を開始

JIFFは2019年より小・中学生を対象とした体験型授業「JIFFインクルーシブ教育プログラム」のトライアルを重ねてきましたが、2022年2月に正式リリースし、実施校の募集を開始しました。授業はコロナ禍のためオンラインで障がい者サッカー選手が登場し45分で行われました。プログラムを通じて、障がい者スポーツの道具やルールの工夫、競技力向上や日常生活の中での工夫などを伝え、今後、差別や偏見が生じないように障がい理解や多様性への気づきを促しました。



現在はロービジョン（視覚障がい／弱視）、デフ（聴覚障がい）プログラムを提供



首都圏以外の小中学校にもオンラインで授業を実施

02

初出場の5人制サッカー日本代表は5位入賞

2004年のアテネ大会で正式種目となり5回目の開催となったパラリンピック競技・5人制サッカーに日本は初めて出場しました。5人制サッカーは2021年8月29日から9月4日の7日間にわたり青海アーバンスポーツパーク（東京都江東区）で8カ国が出場し行われ、日本は初戦でフランスと対戦し4-0で歴史的初勝利。続く第2戦・ブラジル戦では0-4、第3戦・中国戦では0-2で敗れ、1勝2敗となり予選3位で5-6位決定戦に進出しました。最終戦となるスペイン戦では、1-0で勝利し第5位で大会を終えました。優勝はブラジルで、大会5連覇を達成しました。

大会の様子は「障がい者サッカー年鑑2021」に掲載しています。



研修内容：「サッカーを通じた障害理解」全70分

1. 障害の社会モデル・障害者差別解消法について
 - 2-1. 身体障害者の特性と接し方について
 - 2-2. ～障がい者サッカーの現場から
- 3-1. 知的・精神障害者の特性と接し方について
 - 3-2. ～障がい者サッカーの現場から
4. エンディング

障がい特性と接遇を学ぶeラーニング研修プログラムをスタート

JIFFはアライアンスパートナーである日本ケアフィット共育機構の監修により、パートナー企業向けのeラーニング研修プログラムとして「サッカーを通じた障害理解」（全70分）を開発しました（2022年4月から提供開始）。障害の社会モデルや障害者差別解消法についての基礎知識、それぞれの障がい特性と接遇を学ぶもので、障がい者サッカーの現場における知見・経験から職場に活かせる工夫のエピソードも交えて紹介しています。

TOPICS

9地域障がい者サッカー連携会議
中央主導から地域主導へと発展

障がい者サッカーを管轄する
組織や会議体が31都道府県まで増加

日本障がい者サッカー連盟は（JIFF）は、日本サッカー協会（JFA）と協働し、2019年からスポーツ庁委託事業として「9地域障がい者サッカー連携会議」を全国9地域（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）で開催しており、「障がい者サッカーネットワークの構築」と「地域に応じた障がい者サッカー活動の推進」を図ってきました。

2021年度はネットワークの枠組みを9地域から都道府県にシフトし、各都道府県のサッカー協会を中心に会議体を設けることを促し、各都道府県での連携した活動の計画と実施を目指しました。具体的には、2021年度の進め方に関する方針発表と基本的な障がいや障がい者サッカーの知識についての勉強会を兼ねた「全体会」（のべ294名が参加）を開催し、また、共通課題である障

がい者サッカーを推進する組織・体制づくり、インクルーシブな場づくり、障がい者サッカーチームづくりや障がいに応じた場づくりについてのナレッジ共有の場として「課題別ワークショップ」（のべ268名が参加）を開催しました。そして、年明けの1月には「報告会」（のべ132名が参加）を開催し、各都道府県が2021年に取り組んだ事例を全体で共有しました。

この継続した取り組みにより、障がい者サッカーを管轄する組織や会議体を設置している都道府県が、2021年度に11増加し、合計で31となりました。また、この組織や会議体をきっかけにサッカー界を横断したイベントや指導者講習会など、様々な取り組みが全国で創出されるようになりました。

9地域障がい者サッカー連携会議

【実施期間】2021年8月16日～2022年1月25日
【実施方法】オンライン（zoomを利用）
【参加人数】のべ694名

全体会

2021年8月16日・19日・23日・26日（全4回）

〈第1部〉報告・説明会

2021年度の進め方に関する方針発表

〈第2部〉勉強会

基本的な障がいや障がい者サッカーの知識について
（参加人数 のべ294名）



課題別ワークショップ

2021年10月4日・21日・28日（計3回）

先進事例や課題解決のナレッジ共有

①障がい者サッカーを推進する組織・体制づくり

②インクルーシブな場づくり

③障がい者サッカーチームづくりや
障がいに応じた場づくり

（参加人数 のべ268名）

報告会

2022年1月13日・14日・25日（計3回）

2021年活動報告と2022年活動計画の発表

（参加人数 のべ132名）

障がい者サッカーの組織連携・地域連携

2014年 「JFAグラスルーツ宣言」を発表
障がい者サッカーもサッカーファミリーの一員に

JFA

2015年 都道府県サッカー協会内に
障がい者サッカー担当者を設置
障がい者サッカー担当者が全国から集まり会議を実施

2016年 日本障がい者サッカー連盟設立

JFA 地域/都道府県サッカー協会

2017年 9地域ごとに障がい者サッカー担当者が
集まり、会議を実施
障がい者サッカー7競技団体（日本協会）の
担当者も一部参加

2018年 JFA 地域/都道府県サッカー協会
JIFF 障がい者サッカー7競技団体

スポーツ庁委託事業としての
事業を開始

スポーツ庁

2019年 「9地域障がい者サッカー連携会議」を実施
既存参加者に加えて、
障がい者サッカー7競技団体に
登録する地元の障がい者サッカークラブ、
Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ等の
関係者等が初参加

のべ
340名
参加

2020年 「9地域障がい者サッカー連携会議」を
オンラインで継続実施
オンラインの活用により更なる参加者の増加

のべ
440名
参加

2021年 「9地域障がい者サッカー連携会議」を
地域主導に発展
都道府県サッカー協会主導での
連携会議開催へ発展、共通課題に応じた
ワークショップの開催

JFA 地域/都道府県サッカー協会
JIFF 障がい者サッカー7競技団体
Jリーグクラブ/
百年構想クラブ 障がい者
サッカーチーム

都道府県内の連携を推進する組織または会議体

地域	都道府県	都道府県サッカー協会内の組織	都道府県サッカー協会外の 組織または会議体
北海道	北海道	北海道サッカー協会 チャレンジド委員会	
東北	宮城県	城県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
	宮城県	NEW 秋田県サッカー協会 事業委員会が管轄	
関東	茨城県	茨城県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	栃木県	NEW 栃木県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
	埼玉県		埼玉県障がい者サッカーネットワーク協議会
	東京都		NEW 東京都インクルーシブ連携会議
	神奈川県	NEW 神奈川県サッカー協会 グラスルーツ推進部	
北信越	長野県	長野県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
	富山県	NEW 富山県サッカー協会 グラスルーツ委員会／障がい者サッカー 実行委員会	
	石川県	石川県サッカー協会 グラスルーツ委員会	石川県サッカー協会主導の連携会議
	福井県	福井サッカー協会 グラスルーツ委員会	
東海	静岡県	静岡県サッカー協会 チャレンジド委員会	
	愛知県		愛知県サッカー協会主導の 障がい者サッカーチーム会議
	岐阜県	NEW 岐阜県サッカー協会 技術委員会普及育成部が管轄	
関西	大阪府	NEW 大阪府サッカー協会 障がい者サッカー部会	
	兵庫県	兵庫県サッカー協会 障がい者サッカープロジェクト	兵庫県サッカー協会主導の 障がい者サッカーチーム会議
中国	鳥取県	鳥取県サッカー協会 技術委員会 普及部会内 障がい者サッカー推進ミーティング	広島県インクルーシブフットボール連盟
	島根県	島根県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	岡山県		NEW 岡山県サッカー協会主導の連携会議
	広島県		広島県インクルーシブフットボール連盟
	山口県	山口県サッカー協会 インクルーシブ委員会	山口県内で障がい者サッカーを統括する 連盟設立の動き
	四国	四国サッカー協会 インクルーシブ委員会	
九州	徳島県	徳島県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	愛媛県	愛媛県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	高知県	NEW 高知県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	佐賀県	佐賀県サッカー協会 障がい者サッカー委員会	
	長崎県	長崎県サッカー協会 きらめき部会	
	熊本県	熊本県サッカー協会 チャレンジド委員会	
	大分県	大分県サッカー協会 パラ委員会	
	鹿児島県	NEW 鹿児島県サッカー協会 インクルーシブ委員会 （2022年度設置予定）	NEW 鹿児島県インクルーシブ連携会議
	沖縄県	沖縄県サッカー協会 障がい者委員会	NEW 沖縄障がい者サッカー連盟

2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、障がい者サッカー7競技団体が主催する多くの大会、各カテゴリーの日本代表が出場する国際大会も延期・中止となりました。本連盟主催事業も影響を受けましたが、「9地域障がい者サッカー連携会議」「インクルーシブフットボールフェスタ」「バルサ財団との指導者講習会」等オンライン化するなど工夫し、事業を進めることができました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、サッカー界が連携し「TEAM FOOFBALL JAPAN 2020」を結成し、出場した3カテゴリー（U-24日本代表、なでしこジャパン、ブラインドサッカー男子日本代表）が初めて同一ユニフォームを着用しました。

その他の新たな取り組みとしては、小中学校向け教育プログラムのトライアルを終え、2022年度実施校の募集を開始しました。また、企業向けのeラーニング研修プログラムを開発しました。国際的な動きもあり、2021年9月にパラフットボール財団（オランダ）へのアフィリエイトFA（会員組織）登録を行いました。英語版サイトも新たに構築し、更なる連携強化に取り組みしました。

組織基盤強化事業

1

JIFFパートナー制度の充実

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、広くサッカーを通じて、障がい者と健常者が混ざり合う共生社会を築いていくためのパートナー制度を運用しました。2021年度よりJIFFパートナー、賛同パートナーのほか、新たに教育コンテンツ開発パートナーおよびインクルーシブ教育プログラム事業協賛を設け、契約を更新または新規に締結しました。

※詳細は本紙12～13頁参照

障がい者サッカー共同事務局の充実

障がい者サッカー7競技団体の組織基盤の強化および活動のサポートのため、オフィス提供のほか、問い合わせ一次対応、郵便物対応、情報整理・発信等に関する業務を行い障がい者サッカー共同事務局を運用しました。

※2022年7月時点で5団体が主のオフィスを共同事務局内に移転



障がい者サッカーに関する相談窓口の運用

障がい者サッカーに関する様々な相談や問い合わせを受け付け、必要に応じて関係する団体と情報共有しながら対応しました。主に競技参加や指導者登録制度についての問い合わせなどがありました。業務時間：月曜日から金曜日の11:00～16:00（祝日は除く）

コミュニケーション推進事業

2

障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施しました。

- ① 障がい者サッカーに関する情報収集
 - ② 本連盟ウェブサイト拡充およびSNSの活用による情報発信の強化
 - ③ JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
 - ④ デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援
 - ⑤ JIFF障がい者サッカー年鑑の発行
 - ⑥ 英語版ウェブサイトの構築 **NEW**
- パラフットボール財団（オランダ）やバルサ財団（スペイン）をはじめとし、更なる連携強化および障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展を目的に英語版サイトを構築しました。



個人会員制度の構築

個人の支援者を募るために次のことを実施しました。

- ① 個人寄付会員制度（JIFFサポート会員）の構築と運用 **NEW**
- 7つの障がい者サッカーの普及・発展および共生社会の実現に向け、継続寄付による個人会員制度「JIFF サポート会員制度」を新たに構築し運用しました。
- ② キフティング（寄付×リフティング）活用の推進
- ③ ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みの運用

各種キャンペーンへの参加

- ① Warm Blue 2021キャンペーン（2021年3月31日～4月4日）
国連の定める自閉症啓発デー（4月2日）に合わせて、自閉症の方だけでなくその他の障がいや難病のある方、LGBTの方など多様な方が混ざり合って楽しむキャンペーンに参加。青いものを身につけてSNSに投稿する「ブルーフォト」、個人のチャレンジを社会貢献に繋げる「キフティング」を行いました。
- ② 「Football For All Weekend」キャンペーン（2021年12月3日～5日） **NEW**
国連の定める国際障害者デー（12月3日）に合わせて、パラフットボール財団（オランダ）と連携し、障がい者サッカー7競技団体も協力し、インクルーシブな取り組みを発信する SNS キャンペーンに参加しました。全国の障がい者サッカーチームやリーグクラブも参加しました。

フットボール連携事業

3

「TEAM FOOTBALL JAPAN 2020」結成／東京2020大会でのサッカー同一ユニフォーム着用 **NEW**



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、サッカー界が連携し「TEAM FOOFBALL JAPAN 2020」を結成しました。同大会に出場した3チーム（U-24日本代表、なでしこジャパン、ブラインドサッカー男子日本代表）が初めて同一ユニフォームを着用しました。

※詳細は本紙4頁参照

JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進

JFAまたは都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカーコース）の修了者に本連盟から「JIFF インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF 普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進しました。2021年度は新規で127名が登録し、累計292名となりました。

手話通訳費用の補助制度の運用

JFAまたは都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会/連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用しました。2021年度は2件の制度活用がありました。

「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2021」の対面・オンライン同時開催

東京都内のJリーグクラブ、Fリーグクラブ、WEリーグクラブ、なでしこリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ、障がい者サッカーチームの協力により実現しました。

【開催日】2021年12月25日（土）
【開催方法】対面・オンライン同時開催
【会場】フットサルステージ（東京都多摩市）
【内容】〈第1部・第2部〉まぜこぜサッカー、ダンスやボールタッチなど身体を動かすアクティビティ等 〈第3部〉まぜこぜウォーキングフットボール
【参加人数】248名



JFAフットボールデー「インクルーシブフットボールフェスタ神奈川2021」初開催 **NEW**

神奈川県サッカー協会および県内のJリーグ全クラブ、障がい者サッカーチーム・団体の協力により実現しました。

【開催日】2021年10月19日（土）
【主催】一般社団法人神奈川県サッカー協会
【共催】一般社団法人日本障がい者サッカー連盟
【開催方法】オンライン
【配信会場】神奈川県立スポーツセンター（神奈川県藤沢市）
【内容】〈第1部〉7つの障がい者サッカー説明会 〈第2部〉まぜこぜサッカー（ダンスやボールタッチなど身体を動かすアクティビティ等）
【参加人数】のべ216名



バルサ財団「FutbolNet メソッド」による障がい者サッカー指導者講習会への協力

スポーツを通して多様な価値観を学び社会に適應できる人材を増やしていくこと、障がい児・者のサッカーのプレー環境整備をしていくことを目的に、バルサ財団のオンラインによる指導者講習会に協力しました。

【事業名】バルサ財団「FutbolNet メソッド」による指導者講習会オンラインプログラム
【開催期間】① 2022年1月11日（火）新規受講者向け ② 2022年1月17日（月）新規受講者向け



2021年度 事業報告

2021年4月1日～2022年3月31日

9地域障がい者サッカー 連携会議のオンライン開催

各地域における「障がい者サッカーネットワークの構築」と「地域に応じた障がい者サッカー活動の推進」を目的に9地域障がい者サッカー連携会議をオンラインで継続開催しました。2021年度は各都道府県主導による実施とし、(1) 2021年度の進め方に関する方針発表と基本的な障がいや障がい者サッカーの知識についての勉強会を兼ねた「全体会」、(2) 先進事例や課題解決のナレッジ共有の場として「課題別ワークショップ」、(3) 2021年活動報告と2022年活動計画を発表する「報告会」を開催しました。

【事業名】9地域障がい者サッカー連携会議
【実施期間】2021年8月16日～2022年1月25日
【実施方法】オンライン（zoomを利用）
【参加人数】のべ694名

●全体会（計4回）
内容：〈第1部〉報告・説明会 2021年度の進め方に関する方針発表
〈第2部〉勉強会 基本的な障がいや障がい者サッカーの知識について

日程：2021年8月16日（月）
2021年8月19日（木）
2021年8月23日（月）
2021年8月26日（木）

参加人数：のべ294名

●課題別ワークショップ（計3回）
内容：先進事例や課題解決のナレッジ共有
日程：2021年10月4日（月）障がい者サッカーを推進する組織・体制づくり
2021年10月21日（木）インクルーシブな場づくり
2021年10月28日（木）障がい者サッカーチームづくりや障がいに応じた場づくり

参加人数：のべ268名

●全体会（計3回）
内容：2021年活動報告と2022年活動計画の発表
日程：2022年1月13日（木）
2022年1月14日（金）
2022年1月25日（火）

参加人数：のべ132名

※詳細は本紙6～7頁参照



JFAとのハンドブック 作成協力 **NEW**

JFAが「Football for All」JFAグラスルーツ宣言の実現、SDGsの取り組みの一環として制作した「JFA審判員向け障がい者サッカーハンドブック」へ、作成協力を行いました。

コンテンツ開発事業

小・中学校向けオンライン教育 プログラムの開発／2022年度 実施校募集開始 **NEW**

小・中学校向けの教育プログラムのオンライン授業（45分）をトライアル実施しました。ロービジョンプログラムのほか、新たにデフプログラムを開発しました。2022年2月に正式リリースし、2022年度の実施校募集を開始しました。

【実施回数】34件（小学校18件／中学校16件）
【体験人数】1,282人

※詳細は本紙5頁参照

パートナー企業向け eラーニング研修プログラムの 開発 **NEW**

公益財団法人ケアフィット共育機構と連携し、パートナー企業向けのeラーニング研修プログラム「サッカーを通じた障害理解」（全70分）を開発しました（2022年4月から提供開始）。

※詳細は本紙5頁参照

その他

5

パラフットボール財団との 国際連携

障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組むパラフットボール財団（オランダ）と更に連携を深めるべく、2021年9月にアフィリエイトFA（加盟団体）登録を行いました。

2022年度 事業計画

2022年4月1日～2023年3月31日

組織基盤強化事業

7競技団体の組織基盤を強化し、活動をサポートする施策の実施

1 障がい者サッカーに関する相談窓口

障がい者サッカーに関する様々な相談や問合せを受け付け、必要に応じて関係する団体と情報共有しながら、解決に導くように対応します。新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、問い合わせ受付時間を決定します。

2 障がい者サッカー共同事務局の充実

社員の組織基盤の強化および活動のサポートのため運用を開始した障がい者サッカー共同事務局をより活用しやすいよう充実させます。

3 JIFFパートナー制度の充実

JIFFパートナー制度を効果的に運用し、パートナーを拡大することで、事務局運営基盤の強化および社員の活動サポートの原資を確保すると共に、パートナー企業が自社のイベントや社員教育等に障がい者サッカーのプログラムをコロナ禍でも有効活用できるようにします。

4 コンプライアンスの整備

JIFFと社員で構築したコンプライアンス連携体制を運用し、情報発信、会議、研修の企画実施等で整備を進めます。

5 各種会議の開催

社員の組織基盤強化や組織間の連携を図るための会議等を開催します。

6 障がい者サッカー日本代表活動におけるJFAとの連携強化

体制整備、競技力向上等に関する連携強化可能な体制を構築します。

コミュニケーション推進事業

障がい者サッカー全体の情報発信力を強化し、ファンや支援者を増やす施策の実施

1 障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施します。

- 1 障がい者サッカーに関する情報収集
- 2 本連盟ウェブサイトの運用およびSNSの活用による情報発信の強化
- 3 JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
- 4 デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援
- 5 障がい者サッカー年鑑の発行

2 個人向け資金調達の充実

ファン獲得のために次のことを実施します。

- 1 個人の継続寄付会員制度「JIFFサポート会員」の運用
- 2 キフティング（寄付×リフティング）活用の推進
- 3 ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みの運用
- 4 寄付型支援自動販売機の設置促進

フットボール連携事業

サッカー界のリソース活用と連携施策の実施

1 JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進
都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカー指導コース）の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進します。

2 手話通訳費用の補助制度の運用

日本サッカー協会または都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会/連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用します。

3 インクルーシブフットボールフェスタの開催

共生社会の実現のため、障がい者も健常者も混ざり合ってサッカーを楽しむインクルーシブフットボールフェスタを開催します。開催地は東京、広島において継続し、新規での開催にも努めます。コロナ禍の状況が続くことを考慮し、オンラインプログラムの準備も並行して進めます。

4 障がい者サッカー連携会議の開催

各都道府県における障がい者サッカーの連携を更に確かなものにしていくために、JFAとともに現状のニーズに適した形での障がい者サッカー連携会議をオンラインにて開催します。

5 バルサ財団「FutbolNetメソッド」による 障がい者サッカー指導者講習会の開催

スポーツを通して多様な価値観を学び社会に適応できる人材を増やしていくこと、指導者の指導力向上を行うことで、障がい児・者のサッカーのプレー環境を整備をしていくことを目的に、バルサ財団と協力し障がい者サッカー指導者講習会を開催します。

6 Warm Blueキャンペーンの実施

4月2日自閉症啓発デーに合わせて、自閉症の方だけでなくその他の障がいや難病のある方、LGBTQ+の方など多様な方が混ざり合って楽しみながら普及啓発を行います。

コンテンツ開発事業

共生社会実現へ向けロールモデルとなる事業の開発の実施

1 研修プログラムの開発・販売

eラーニングコンテンツを含めた企業向けのオンライン研修プログラムを充実させ、オンライン・対面どちらでも実施可能な体制を構築します。パートナー企業が自社の社員教育やイベント等に障がい者サッカーのプログラムをコロナ禍において有効活用できるようにします。

2 教育プログラムの実施

小・中学校向けにインクルーシブ教育プログラムを継続的に行える体制を構築します。デフサッカー、ロービジョンフットサル以外の障がい種別のプログラムを開発します。

その他の事業

1 国際連携の取り組み

パラフットボール財団と協力し障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組めます。

2022

パートナー／支援団体／助成団体

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、サッカーを通じて共生社会を築いていくため、パートナー制度を設けています。本制度の概要および、2022年7月時点でのパートナー企業、ご支援、助成いただいている団体をご紹介します。

JIFFパートナー制度について

JIFFでは、ご支援・ご協力いただいている法人企業のみなさまを「パートナー」と呼んでいます。一方的な支援になりがちな障がい者スポーツですが、JIFFとパートナー企業は、JIFFが理念に掲げる「共生社会」を共に創り上げていく仲間です。

障がいについて学ぶ機会や障がい者サッカーを通じて、ダイバーシティ&インクルージョンの大切さに気づく場の創出を目指し、JIFFパートナー企業向けに障がい者サッカーの体験・研修・講演のプログラムを実施しています。

2021年度 JIFFパートナー／支援団体 主な掲載実績

7つの障がい者サッカー競技団体の全国大会やJIFFのイベント等において、JIFFパートナーや支援団体のロゴが入った横断幕の掲示や、大会プログラム等へのロゴ掲載を行っています。2021年度はコロナ禍によって大会の中止や延期がありましたが、開催された右記の大会等において掲載しました。



パートナーおよび支援団体ロゴ入りの横断幕（最新版デザイン）

大会プログラム等に掲載する紹介ページ（最新版デザイン）

2021年12月

JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2021／第17回全日本ろう者サッカー選手権大会／第8回全日本ろう者女子サッカー選手権大会

2022年1月

第19回アキサ ブレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権

2022年2月

第10回アンブリティサッカー日本選手権2021

2022年3月

「障がい者サッカー年鑑2021」への掲出および広告掲載



JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2021（対面・オンライン同時開催）での掲出バナー

2022年度提供可能な研修プログラム

【研修】

競技や障がい特性を活かした研修プログラムにより、コミュニケーションやチームビルディング等の研修の実施が可能です。2022年4月からはeラーニング研修「サッカーを通じた障害理解」（全70分）の提供を開始しました。障がい特性や接遇など基礎知識を学べます。



【体験】

障がい者サッカーを体験、または障がい者と一緒にプレーし、障がいへのイメージ等が変化することを目指します。



【講演】

障がい者サッカーの選手や団体関係者等が、競技や障がい理解、障がい者を取り巻くスポーツ環境等をテーマに講演。オンラインでの実施も可能です。



JIFFパートナー制度およびご支援について

JIFFパートナー制度や法人寄付、その他ご支援については、右記よりお問い合わせください。また、各種障がい者サッカー研修等の実施についても、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ先

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 事務局

TEL 03-3818-2030 MAIL jiff_info@jfa.or.jp

WEB <https://www.jiff.football/join/partner/>

※2021年7月時点

パートナー企業／支援団体／助成団体一覧

公式ユニフォームサプライヤー



アディダス ジャパン株式会社

支援団体



一般財団法人日本サッカー後援会

JIFFパートナー



クオールホールディングス株式会社



住友ベークライト株式会社



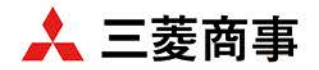
東京海上日動火災保険株式会社



日本マクドナルド株式会社



ビーウィズ株式会社



三菱商事株式会社

賛同パートナー



FBモーゲージ株式会社



株式会社協同



株式会社クリエイティブヘッズ

教育コンテンツ 開発パートナー



株式会社マネジメントソリューションズ

インクルーシブ教育プログラム事業協賛



中外製薬株式会社



リコーリース株式会社



株式会社インフォーマット



株式会社オフィチーナクレア

サプライサービスパートナー



共和ゴム株式会社



株式会社PR TIMES



株式会社
マネジメントソリューションズ



株式会社吉岡



learningBOX株式会社

メディアパートナー



「ゲキサカ」株式会社講談社が運営するデジタルサッカーメディア

アライアンスパートナー



公益財団法人日本ケアフィット共育機構

助成団体



日本財団HEROs



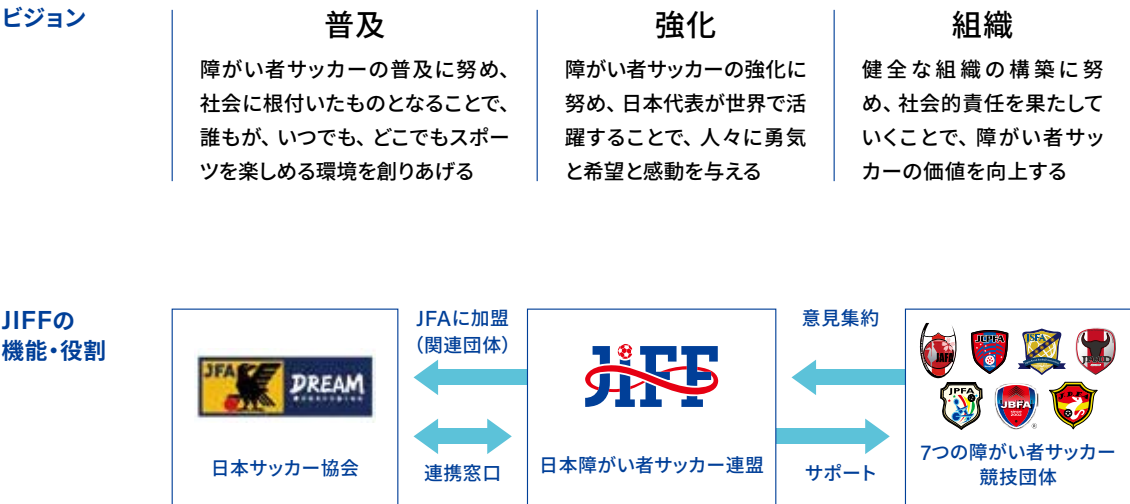
スポーツ振興くじ助成

JIFF概要

JIFFはJFAの関連団体で、JFAと協働し、7つの障がい者サッカー競技団体の活動をサポートする中間支援組織です。

理念

広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する



名称

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
Japan Inclusive Football Federation

設立

2016年4月1日

役員

※2022年7月時点

会長 北澤 豪
副会長 田中 賢二 (一般社団法人 日本ろう者サッカー協会)
前鼻 啓史 (特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会)
専務理事 松田 薫二 (公益財団法人 日本サッカー協会)
理事 井口 健司 (特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会)
佐々 毅 (特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会)
神 一世子 (一般社団法人 日本CP サッカー協会)
鈴木 宏和 (特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟)
日比野 (田中) 暢子 (桐蔭横浜大学)
山木 譲 (一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会)
監事 樽本 哲 (弁護士)
奥村 武博 (公認会計士)

社員構成

特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会
一般社団法人 日本CP サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会
特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟
一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会
一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

所在地

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り (本郷3-10-15) JFA ハウス内

公式サイト

<https://www.jiff.football>

公式SNS

Facebook <https://www.facebook.com/jiff.football/>
Twitter https://twitter.com/JIFF_Football
Instagram https://www.instagram.com/jiff_football/

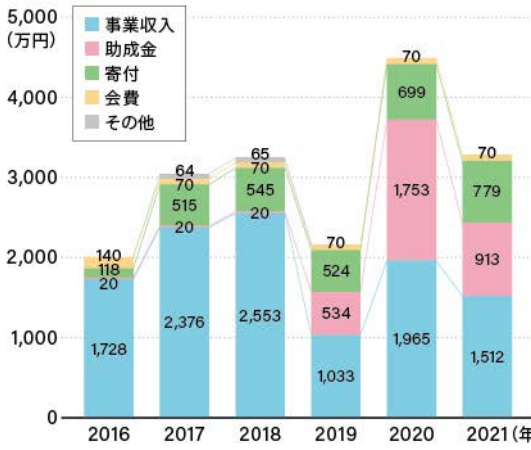
障がい者サッカーに関する相談窓口 03-3818-2031 (平日11:00~16:00)

財務報告

2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、前年度同様本連盟の社員である障がい者サッカー7競技団体が主催する多くの大会、各カテゴリーの日本代表が出場する国際大会も延期・中止となりました。本連盟主催事業も影響を受けましたが、オンラインを併用することで事業を進めることができました。収支については、中長期的に収益源の分散を図ってきました。コロナ対策助成等の助成金収入が減少しましたが、JIFFサポート会員制度の立ち上げ等取り組み

を強化してきた寄付収入が増加しました。新型コロナウイルス感染症の影響としては、インクルーシブフットボールフェスタ等が順延となり、それに関わる収入が2022年度に振り替えとなりました。2022年度は、引き続き不透明な経済状況が予想されますが、eラーニング研修の提供、パートナー制度の充実、JIFFサポーター会員制度の充実など、皆様のご支援により財源の一層の安定化を図り、共生社会の実現に向け事業を展開していきます。

収入推移



事業別支出推移



活動計算書

2021年4月1日～
2022年3月31日

(単位:円)

科目			金額
経常収益	受取会費	正会員受取会費	700,000
	受取寄附金	受取寄附金	7,791,237
	受取助成金等	受取国庫助成金・受取民間助成金	9,127,615
	事業収益	組織基盤強化事業収益	4,890,001
		コミュニケーション推進事業収益	1,630,000
		フットボール連携事業収益	1,538,177
		コンテンツ開発事業収益	1,630,000
		ファンドレイジング等収益	5,433,336
	その他の収益		522
経常収益 計		32,740,888	
経常費用	事業費	人件費	8,305,480
		その他経費	15,838,473
	管理費	人件費	3,612,380
		その他経費	4,817,001
	経常費用 計		32,573,334
当期経常増減額			167,554
税引前当期正味財産増減額			167,554
法人税、住民税及び事業税			70,000
前期繰越正味財産額			36,100,100
次期繰越正味財産額			36,197,654

貸借対照表

2022年3月31日現在

(単位:円)

科目		金額	科目		金額			
資産の部	流動資産	現金預金	41,026,862	負債の部	流動負債	未払金	795,716	
		棚卸資産	2,733,334			未払法人税等	70,000	
		立替金	178,200			未払消費税等	481,400	
		未収入金	3,472,624			預り金	155,484	
		前払費用	830,500			前受収益	10,645,000	
		流動資産 計	48,241,520					
		固定資産	一括償却資産		103,734			
		固定資産 計	103,734			流動負債 計	12,147,600	
資産の部 合計		48,345,254	負債の部 合計		12,147,600			
			正味財産の部	前期繰越正味財産額	36,100,100			
				当期正味財産増減額	97,554			
			正味財産の部 合計	36,197,654				
			負債及び正味財産 合計	48,345,254				